

第 37 回運営小委員会 議事録

1. 開催日時：平成 30 年 6 月 19 日（火）10:00～12:00

2. 開催場所：電力中央研究所 横須賀地区

新本館 1F 大会議室 3&4

3. 出席者：渡邊・阿部（東北大学）、高木・山本（東芝 ESS）、久宗・杉野（日本原電）、林^代・宮澤（東京電力 HD）、稲垣（中部電力）、山崎^代（三菱重工）、会沢・長瀬（日立 GE）、河村・藤原（電中研）、大橋（オルガノ）、内田・塙（JAEA） 【敬称略、順不同】

4. 議事

(1) 前回議事録の確認

前回運営小委員会議事録について、了承された。

(2) 第 34 回定例研究会について

山本委員（企画担当）より、資料に基づき第 34 回定例研究会の案について説明がなされた。

開催日時は平成 30 年 10 月 5 日（金）13:30～17:00、場所は TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口とし、定例研究会の前、午前に第 38 回運営小委員会を開催することとなった。講演は 5 件を予定しているが、8 月中旬には内容を固める必要があることから、事前調整の上夏期セミナーを利用して議論するのが良い旨、コメントがなされた。

秋の定例研究会は、首都圏外にある電力各社の持ち回りとしてここ数年間開催しているが、次回で各社一回ずつの開催を終える。同様のシステムを継続するか、次回運営小委員会で議論することとなった。

(3) 3 部会合同夏期セミナーについて

山本委員（企画担当）より、資料に基づき 3 部会合同夏期セミナーにおける作業分担案等の説明がなされた。

事務局である東芝 ESS 殿の負担を減らすため、司会は大学の先生にお願いする方向で調整を進めることとなった。ポスターセッションについて、水化学部会からの審査員は渡邊部会長ほか二名にお願いするとともに、審査基準の前例を事務局で調べておくこととなった。

懇親会の利き酒には人手が必要であり各機関に人員を要請した方が良く、初日の交流会でも参加者の興味を惹くような演し物、例えば地元の紹介などを準備するのが望ましい旨、コメントがなされた。

(4) 部会賞の制定について

久宗副部長より、資料に基づき水化学部会部会賞の最終案について説明がなされた。

方針として、

- ・ 選考小委員会について、委員名は選考時には公表しないが公正を期すために委員任期後に公表する、任期は2年で再任は妨げないとする。
- ・ 対象とする会議は、国際会議：NPC 及び AWC、国内会議：日本原子力学会「春の年会」及び「秋の大会」とする。
- ・ 賞の名称については水化学部会の賞であることを明示的にする。
- ・ 講演賞の人数制限（3名以内／年）を設定する。

部会賞に係る規約の最終版はメールで審議することとなった。

(5) NPC2018 への参加対応について

久宗副部長より、資料に基づき NPC2018 の報告書作成方針について説明がなされた。

報告書作成にかかる基本方針として、

- ・ 各セッションの簡単な概要と留意点を記載する。
- ・ AWC 2021 に備えて会議開催・運営に係る留意点を纏め、運営小委で情報共有する。
- ・ ラジオリシス WS の報告書も作成する。

今後、NPC 参加予定者を対象に執筆分担等の調整を行うこととなった。

(6) AWC2021 の日本開催に係る検討 WG の設置について

久宗副部長より、資料に基づき、AWC2021 検討 WG を設置すること、基本計画を10月の運営小委、予算を踏まえた会議規模等を3月の運営小委で報告する方針であることが説明された。

今後、東北電力殿には情報の共有が必要であること、実行委員の負担を減らすために外部委託業者の選定が重要となること、近々仙台で開催される保全学会の国際会議の情報が今後の検討の参考になる旨のコメントがなされた。

(7) 原子力学会誌 連載講座について

久宗副部長より、資料に基づき原子力学会誌の執筆スケジュール等について説明がなされた。

連載講座は、水化学ハンドブックの改訂と並行して執筆する必要があることから、記事提案書及び原稿提出は予定より大幅遅れることになる。

(8) 水化学ハンドブックの改訂について

久宗副部長より、資料に基づき、各章の検討状況、執筆担当者には委嘱状を発信すること、水化学ハンドブックの内容を訂正・改変する事について石樽

先生から許諾を得ていること、今後は他の旧著者に対してハンドブック改訂を進める旨の連絡をする予定であること等が報告された。

(9) 水化学ロードマップのフォローアップ状況について

河村委員（水化学ロードマップフォローアップWG担当）より、資料に基づき検討の進捗状況、具体的には、導入シナリオ、技術マップ、ロードマップ及び課題調査票について 7.1 節から 10 章まで検討が進んでおり、今後、残りの章に対する検討を進めることが報告された。

(10) シビアアクシデント時の核分裂生成物挙動研究専門委員会について

内田顧問より、資料に基づき、前回報告以降の活動状況とともに、8 月の福島第一廃炉国際フォーラムで取り組みを発表すること、水化学部会のホームページに関連する資料が格納されていること等が報告された。

(11) 部会ホームページの運用開始について

稲垣委員（広報・編集担当）より、資料に基づき、部会ホームページの構成等の紹介とともに、現在の懸案事項が報告された。

(12) その他

林田委員（庶務担当）が 6 月末で退任となるため、林氏（東京電力 HD）が後任として選任された。

以 上